

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型通所支援事業所リーノ2		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和 7年 4月 1日		～ 令和 8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さん一人一人の特徴、課題を発達(運動面、理解面)、社会性といった側面で分析し、課題の抽出と具体的な支援を実施している。その都度支援を行った後に職員間で振り返りを行い、次の具体的な支援を考案している。	支援者それぞれが我流の支援にならないように、職員間で情報を共有して、統一して支援になるように心掛けている。	お子さんそれぞれの特徴をしっかりとらえられるように、分析力、見立ての力を培っていくこと。職員研修も敵に取り入れてスキルアップを図っていく。
2	上記1で行っている支援を、個別支援計画にしっかりと落とし込んで作成し、それを親御さんにお見せして同意を得ている。初回の聞き取りでは、親御さんお願いをしっかりと聞きするようになっている。	現場職員と児童発達支援管理責任者が、常に密に情報を共有すること。出来る限り児童発達支援管理責任者もお子さんの様子を実際にみるようにしている。	職員間だけではなく、親御さん、関係機関との連携もしっかりと図っていく。
3	毎回の療育の後には、口頭もしくは必要に応じ動画も撮ってお子さんの様子を親御さんにしっかりと伝えるように取り組んでいる。	出来る限り様子が分かるように細かくその日の様子をお伝えするように心がけている。	口頭でお伝えすることが多くなるので、特に利用を始めたお子さんに対しては、適に動画も撮って様子を分かりやすく伝えていけるように工夫をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者のみなさんが交流できるような企画を行うことがないところ。	毎年学習会などの企画をして、その時に交流が図れるようにと対応してきたが、親御さんの交流が限定的であり、しっかりと交流を図るといふ面では不十分であったように感じている。	親御さんに交流に関するアンケート等を実施し、ニーズを把握したうえで、どのような企画を行っていくことが良いかを検討する。
2	親御さん向けに学習会を企画したが、参加者が少ない状況での開催となってしまった。	開催がいつでも平日であったことから、お仕事をされたりしている方は、参加したくても出来ない方もいた。ここ数年同じ講師の先生をお呼びしていたこともあり、「一度聞いたから」と言われる方もいた。	開催日の検討と、お呼びする講師の先生の選定に関しても検討する必要性を感じている。
3			